

〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp



令和 7 年度 地域学校協働本部事業

「復興に向けた学びを通じた協働のまちづくり事業」協働活動推進研修

地域連携担当教職員等研修会相双地区研修

開催日	令和8年1月9日（金）13：15～16：00
会 場	南相馬市小高生涯学習センター「浮舟会館」
参加人数	28名（教職員10、行政職員7、子ども教室3 市民2 その他6）
研修テーマ	学校と地域の連携・協働による地域づくり
テーマ設定の理由	地域学校協働活動を通しての地域づくりにおいて、大切にしたいことや目的など、基本的なことを振り返るとともに、これから自分たちが何をすべきで、何ができるのかをそれぞれの立場で考えることができるようにする。

1 開 会

- (1) 開会の言葉
- (2) 主催者挨拶 次長 滝本 裕彦
- (3) 諸連絡

2 講話及び研究協議

講話 「学校と地域の連携・協働による地域づくり」

講師 とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬 隆人 氏



I 広瀬隆人の原体験としての学校と地域の連携

1 エピソード 北海道苫小牧市立丸山小学校のこと

→学校は公民館であり、集会場であり、教育の場であり、地域住民が集う場であった。

II 東井義雄『村を育てる学力』1957

1 東井義雄『村を育てる学力』から

→「過半が都市にでる宿命にある」なら、それでもいいと思う。ただ私は、何とかして、学習の基盤に、この国土や社会に対する『愛』を据えつけておきたいと思うのだ。『村を捨てる学力』ではなく『村を育てる学力』が育てたいのだ。



2 無着成恭さんの生徒である佐藤さんの著書『ずぶんのあだまで考えろ』から

→自分の考えを書かせ、問題意識を持たせる授業を行った。…「貧乏村」という印象が広まって苦労した人もいたが、村の問題に根本から向き合ってくれた人でもあった（後略）

Ⅲ 学校を核とした地域づくり

1 文部科学省は…（前略）地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図り、地域づくりを行っていくことを目指しています。

⇒どうやら、本質は、地方創生総合戦略であるようだ。地域住民がもっと積極的に地域づくりに参画して、主体的に地域の課題を解決して欲しい。そのためには、学校を媒介として人がつながる戦略をすすめる必要がある。

◎良い学校は良い地域にしかないということだ

Ⅳ まずはこんなことから始めてみよう

1 ボランティア顔合わせ会

→いきなり、学校に来て手伝ってほしいことを話すのではなく、人間関係をつくってから、進めていきたい。ボランティアさんという言い方ではなく、固有名詞で呼び合う関係をつくるのが大切だと考える。

→学校教育や子どもの育成にかかわることを通じて、地元のつながりをしっかりつくることである。学校応援団を作ることではない。

ex.陶芸（栃木県益子町：益子焼）：陶器市、町並整備（観光開発）

Ⅴ まとめ

◎地域の人のつながりを強くすることによって、学校経営が円滑に展開できるようになる

1 良い学校は、良い地域にしか存在しない。

2 地域の良質な大人と子どもが会うことが教育効果を高める。多くの良質な大人は主に公民館に出入りしている。

3 学校・地域・保護者で教育責任を分担して、地域づくりの担い手を育てていく。

4 地域ごとに、異なる対応、異なる受け止めがある方が良い。



3 閉 会

【感想】参加者からは、以下のような感想が寄せられ、大変意義深い研修となった。

- ・とてもありがたかったです。学校に期待されることが多すぎると感じていたので、地域にも任せてもいいのだと思えました。どんなことができるかはゆっくり誰かと話しながらかみつけていきたいと思ひます。つい新しいことをしなければと思ひがちですひので。（50代：教職員）
- ・生涯学習の事業や講座を企画しても、なかなか人が集まらず、悩むことが多いが、まずは少数でも参加してもらって、そのような方々と一緒に社会教育を少しずつ進めていくことが大事かなと思ひた。（30代：行政職員）
- ・自分の中ではそんな少しの事でも？と思ひることが地域とのつながりに関わっていることに驚きました。小さなことでも大切なことが分かりました。ありがとうございました。（20代：教職員）
- ・地域連携担当として役割について理解を深めることができました。地域づくりの手段としての学校の存在の大きさに気付くこともできたひので、地域とのつながりを大切にしながら町の資源を有効に活用していきたいと思ひます。（50代：教職員）
- ・率直なお話、大変ありがとうございました。勉強になりました。自分でできること、小さな一歩でも工夫して実践していきたいと思ひます。ありがとうございました。（60代：市民）
- ・廣瀬氏の講話に心を動かされました。「良い学校は良い地域にしかない」「どうやるかではなく、なぜやるのかを考へる」「目的は地域づくり」など、今後につながる講話でとても良かったです。本日はありがとうございました。（60代：行政職員）
- ・今回の講話を聞き「それぞれの地域でやり方は違ひてよい」ということを根底におきつつ、学校を支援しながら人のつながりを作ることの重要性を再確認しました。最後のまとめの中にもありましたが、今日の会に参加されていた地元人の方がおりましたひので、つながって帰ろうかと思ひました。ありがとうございました。（50代：教員）